

2023年3月期(2022年度) 中間連結決算について

1. 2022年度中間連結決算 … 営業収益が2期連続の増収

世界的に多くの国や地域で出入国制限の緩和が図られたことに加え、日本国内においても段階的に入国制限が緩和され、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の行動制限が解除されたことなど、新型コロナウイルス感染症の影響から回復基調に転じたことから、航空機発着回数及び航空旅客数が前年同期を大幅に上回りました。国際航空貨物量は海上輸送の混乱に伴う航空貨物へのシフトが回帰しつつあることなどから前年同期を下回ったものの、年度上期としては前期に次ぐ開港以来2番目となっており、これらの結果、営業収益は前年同期の400億円から131億円増収の531億円となり、2期連続の増収となりました。

航空取扱量は回復基調であるものの経営環境は引き続き厳しい状況であり、当社では空港の安全と安定運用を大前提に運用効率化を図るなど、継続して最大限のコスト削減に努めていることなどにより、営業損失は前年同期の216億円から46億円改善の170億円、経常損失は前年同期の220億円から42億円改善の178億円、親会社株主に帰属する中間純損失は前年同期の230億円から44億円改善の185億円となりました。

(単位:億円)

科 目	中間期(4月1日 ~ 9月30日)			
	2021年度	2022年度	増 減	
	実績 A	実績 B	金 額 B-A	% B/Ax100
営 業 収 益	400	531	131	132.7
営 業 費 用	617	702	84	113.7
営 業 利 益	△216	△170	46	-
経 常 利 益	△220	△178	42	-
親会社株主に帰属する 中 間 純 利 益	△230	△185	44	-

(注)決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

【参考】2022年度中間期航空取扱量実績

区 分	中間期(4月1日 ~ 9月30日)			
	2021年度	2022年度	増 減	
	実績 A	実績 B	数 量 B-A	% B/Ax100
航空機発着回数(万回)	6.5	8.3	1.9	128.8
国際線	5.0	5.7	0.7	114.7
国内線	1.5	2.6	1.1	175.3
航空旅客数(万人)	262	783	521	299.2
国際線	93	439	346	470.6
国内線	168	343	175	204.1
国際航空貨物量(万トン)	128	118	△11	91.7

(注)航空取扱量は、単位未満を四捨五入して表示しています。

2. 2022 年度連結業績予想 … 前回発表の航空取扱量見通し及び業績予想を据え置く

本年 5 月 27 日に発表した今期航空取扱量見通しは、国際線は世界各国や日本の出入国制限緩和等により、年度末に向かって徐々に回復し、国内線は行動制限の解除により堅調に推移し、国際航空貨物量も好調な状況が継続すると想定しております。足元の状況は、概ね想定通りに回復しており、前回発表時に想定していた外部環境から大きな変化がない状況です。一方で、今後については、未だ中国の水際対策の見通しや電気・ガス料金単価の動向が不透明であるなど不確定要因があることから、航空取扱量見通し及び業績予想については当初の見通しを据え置くこととしました。

なお、実際の業績はこれら航空需要など経営環境の変化により大きく異なる結果となる可能性があります。継続的に実施している空港の安全と安定運用を大前提とした最大限のコスト削減を進め、業績改善に努めてまいります。

【参考】前回発表時の取扱量見通し及び業績予想

区 分	2021 年度	2022 年度	増 減	
	実績	見通し	数 量	%
	A	B	B-A	B/Ax100
航空機発着回数（万回）	13.8	20.1	6.3	145.8
国際線	10.4	15.6	5.3	151.0
国内線	3.4	4.4	1.0	129.7
航空旅客数（万人）	647	1,625	978	251.1
国際線	235	993	758	423.3
国内線	413	633	220	153.3
国際航空貨物量（万トン）	261	262	1	100.4

（注）航空取扱量は、単位未満を四捨五入して表示しています。

（単位：億円）

科 目	2021 年度	2022 年度	増 減	
	実績	見通し	金 額	%
	A	B	B-A	B/Ax100
営 業 収 益	829	1,285	455	155.0
営 業 費 用	1,324	1,557	232	117.6
営 業 利 益	△495	△272	223	-
経 常 利 益	△504	△302	202	-
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	△524	△330	194	-

（注）決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

3. セグメント別 2022 年度中間連結決算

(単位:億円)

	中間期(4月1日~9月30日)			
	2021年度	2022年度	増減	
	実績	実績	金額	%
営業収益※	400	531	131	132.7
空港運営事業	195	259	64	133.0
リテール事業	41	100	58	240.6
施設貸付事業	148	156	7	105.2
鉄道事業	14	14	0	100.3
営業費用	617	702	84	113.7
営業利益	△216	△170	46	-
空港運営事業	△255	△241	14	-
リテール事業	△40	△8	32	-
施設貸付事業	74	74	△0	100.0
鉄道事業	3	3	△0	89.2
経常利益	△220	△178	42	-
親会社株主に帰属する 中間純利益	△230	△185	44	-

※ 外部顧客への売上高

(注) 決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

- 空港運営事業 : 行動規制の緩和等により航空機発着回数・航空旅客数ともに増加したことから、空港使用料収入は前年同期比 14.0%増の 119 億円、旅客施設使用料収入は前年同期比 228.3%増の 53 億円となり、営業収益は前年同期比 33.0%増の 259 億円、営業損失は 241 億円となりました。
- リテール事業 : 新型コロナウイルス感染症の影響により依然として一部店舗の営業休止等の影響はあるものの行動規制の緩和等に伴い旅客数が増加したことから、子会社が運営する直営店舗の物販・飲食収入は前年同期比 228.9%増の 66 億円、構内営業料収入は前年同期比 59.2%増の 13 億円となり、営業収益は前年同期比 140.6%増の 100 億円、営業損失は 8 億円となりました。
- 施設貸付事業 : 行動規制の緩和等により旅客数が増加したことに伴い駐車場利用者が増加したことから、営業収益は前年同期比 5.2%増の 156 億円、営業利益は前年同期並みの 74 億円となりました。
- 鉄道事業 : 線路使用料収入等に変化がないことから、営業収益は 14 億円、営業利益は 3 億円と前年同期並みとなりました。

4. 財政状態

(注)決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

<連結貸借対照表>

(単位:億円)

科目	2021年度期末	2022年度中間期末	増減	
	実績	実績	金額	%
流動資産	3,496	4,302	805	123.0
固定資産	8,755	7,938	△816	90.7
資産合計	12,251	12,241	△10	99.9
流動負債	1,497	1,309	△187	87.5
固定負債	7,899	8,258	359	104.5
負債合計	9,396	9,568	171	101.8
純資産合計	2,855	2,672	△182	93.6

- 資産合計は、前期末比 0.1%減の 1 兆 2,241 億円となりました。
- 負債合計は、社債の発行等により、前期末比 1.8%増の 9,568 億円となりました。
- 純資産合計は、前期末比 6.4%減の 2,672 億円。自己資本比率は、前期末 22.6%から 1.4 ポイント減少し 21.2%となりました。

(注)決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

<参考:長期債務の推移>

(単位:億円)

科目	2021年度期末	2022年度中間期末	増減		平均金利	
	実績	実績	金額	%	2021年度期末	2022年度中間期末
有利子債務	8,026	8,231	205	102.6	0.50%	0.50%
社債	3,950	4,160	210	105.3	0.41%	0.41%
長期借入金	4,076*	4,071*	△5	99.9	0.58%	0.59%
無利子債務						
長期借入金	50	50	-	100.0	-	-
合計	8,076	8,281	205	102.5		

※財政融資資金の借入残高(4,000 億円)を含む

5. キャッシュ・フローの状況

(注)決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

(単位:億円)

科目	中間期(4月1日~9月30日)		増減
	2021年度	2022年度	金額
	実績	実績	
営業活動によるキャッシュ・フロー	△10	△18	△7
投資活動によるキャッシュ・フロー	△127	△459	△331
フリー・キャッシュ・フロー	△138	△478	△339
財務活動によるキャッシュ・フロー	444	262	△182

- フリー・キャッシュ・フローは、478 億円のキャッシュ・アウト(前年同期比 339 億円増)となりました。
 - 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前中間純損失が改善したものの支払猶予による売上債権の増加及び仕入債務の減少等により、キャッシュ・アウトは前年同期比 7 億円増の 18 億円となりました。
 - 投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得による支出の増加等により、キャッシュ・アウトは前年同期比 331 億円増の 459 億円となりました。
 - 財務活動によるキャッシュ・フローは、社債の発行があったものの、短期借入金の返済及び社債の償還等により、キャッシュ・インは前年同期比 182 億円減の 262 億円となりました。

参考

【連結決算推移】 2022 年度通期は予想

(注) 決算数字は、単位未満を切り捨てて表示しています。

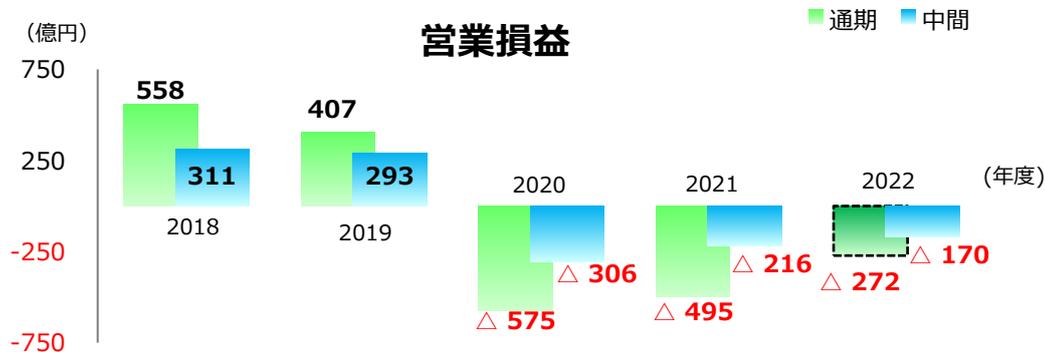


＜2022 年度中間期＞

・2 期連続の増収

＜2022 年度通期予想＞

・2 期連続の増収となる見通し

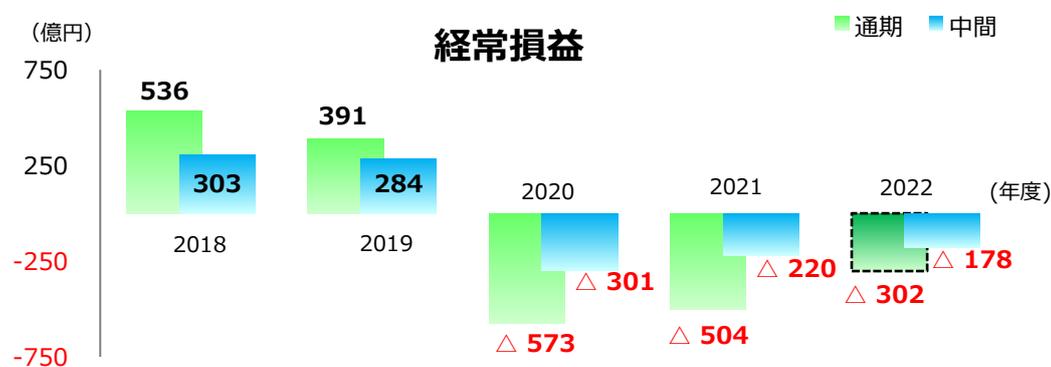


＜2022 年度中間期＞

・3 期連続の損失

＜2022 年度通期予想＞

・3 期連続の損失となる見通し

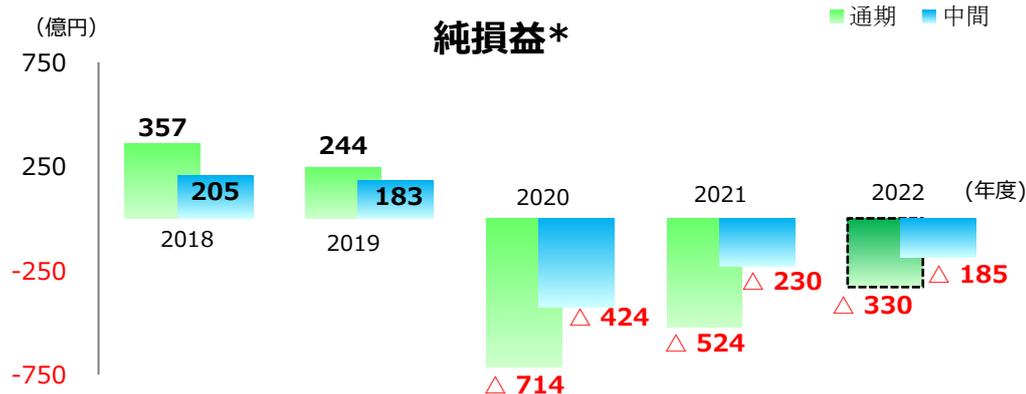


＜2022 年度中間期＞

・3 期連続の損失

＜2022 年度通期予想＞

・3 期連続の損失となる見通し



＜2022 年度中間期＞

・3 期連続の損失

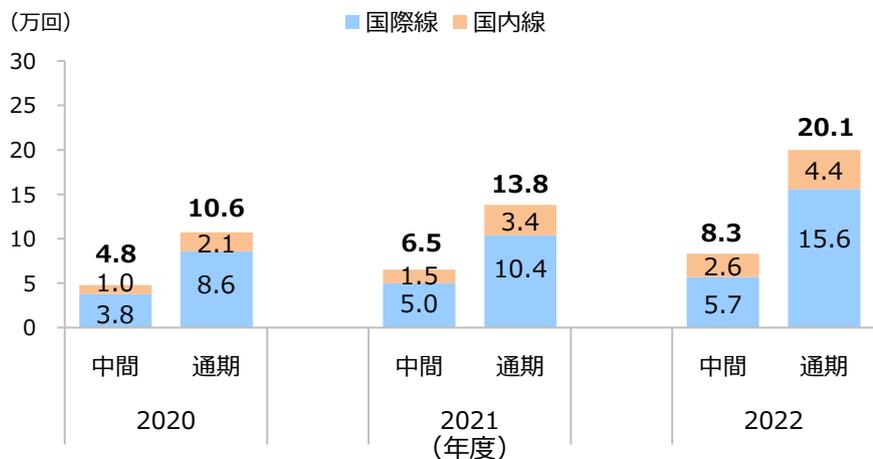
＜2022 年度通期予想＞

・3 期連続の損失となる見通し

*親会社株主に帰属する当期純損益

【航空取扱量推移】 2022 年度通期は見通し

航空機発着回数



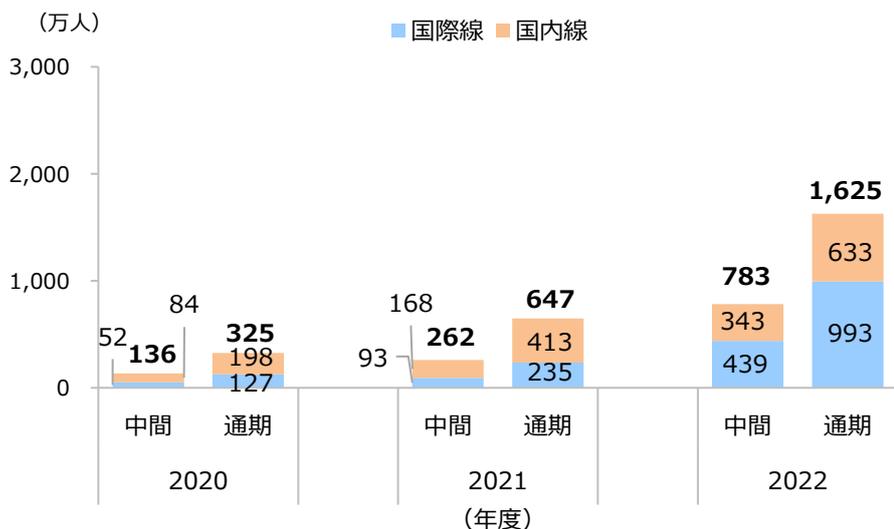
<2022 年度中間期>

- ・全体:2 期連続の増加
- ・国際線:2 期連続の増加
- ・国内線:2 期連続の増加

<2022 年度通期見通し>

- ・全体:2 期連続の増加となる見通し
- ・国際線:2 期連続の増加となる見通し
- ・国内線:2 期連続の増加となる見通し

航空旅客数



<2022 年度中間期>

- ・全体:2 期連続の増加
- ・国際線:2 期連続の増加
- ・国内線:2 期連続の増加

<2022 年度通期見通し>

- ・全体:2 期連続の増加となる見通し
- ・国際線:2 期連続の増加となる見通し
- ・国内線:2 期連続の増加となる見通し